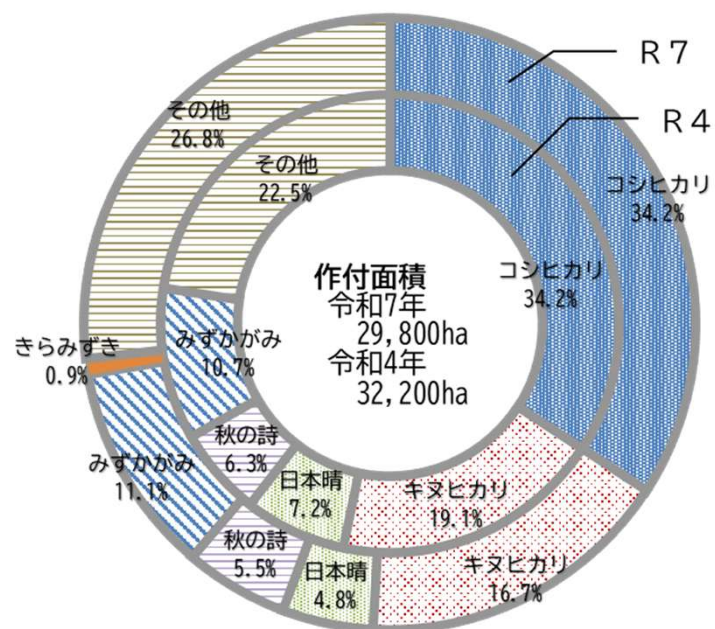


気候変動下における近江米の安定生産 高温耐性品種の導入について

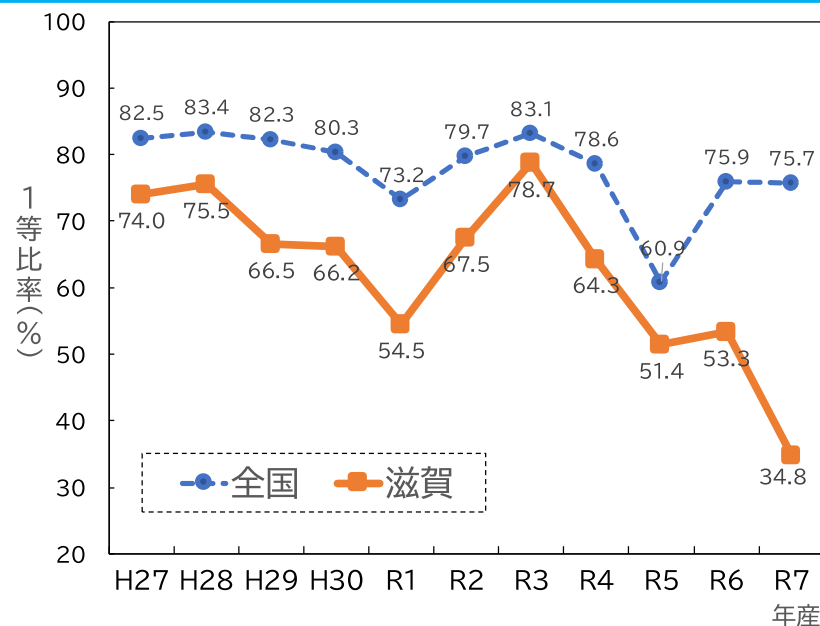
滋賀県農業技術振興センター

近江米を巡る状況



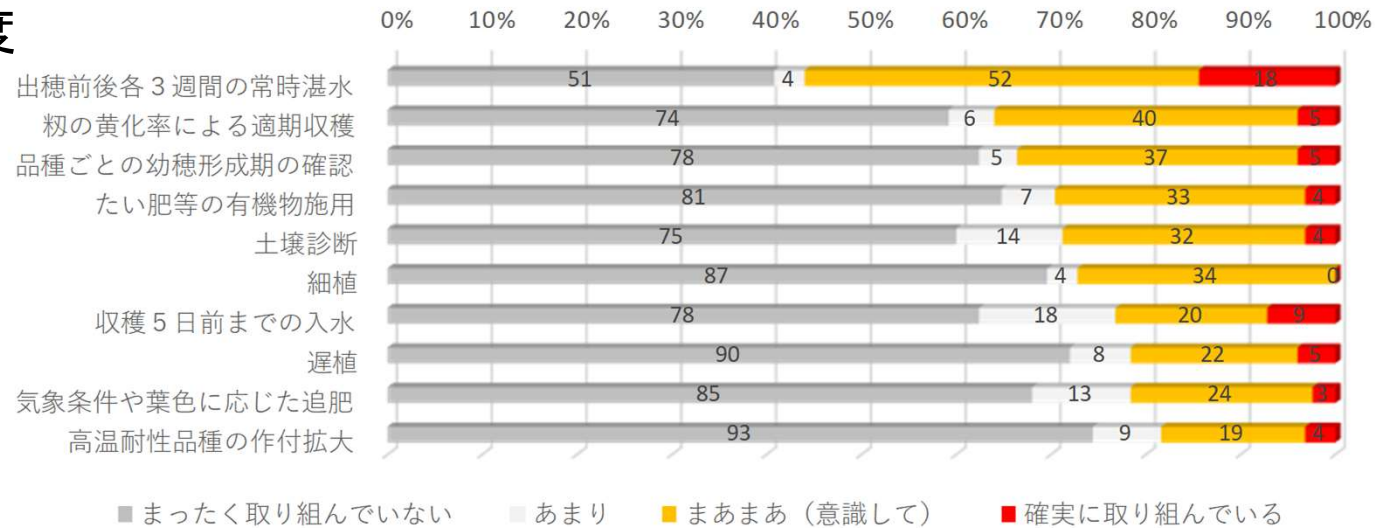
- ◆ 近江米の品種構成は、「コシヒカリ」が34.2%と全体の3割を占める
- ◆ 令和4年産と比較して高温耐性品種である「みずかがみ」は作付面積が増加
- ◆ 全体に占める高温耐性品種の割合は2割程度

- ◆ 1等米比率は、全国平均を下回る状況で、令和7年産では登熟期の高温等の影響により前年産から大きく低下
- ◆ 猛暑により酒米の収量も減少
- ◆ 近江米の安定供給に向けて、品質面の向上が課題



高温対策への取組について（令和5年産と6年産）

令和5年度



令和6年度

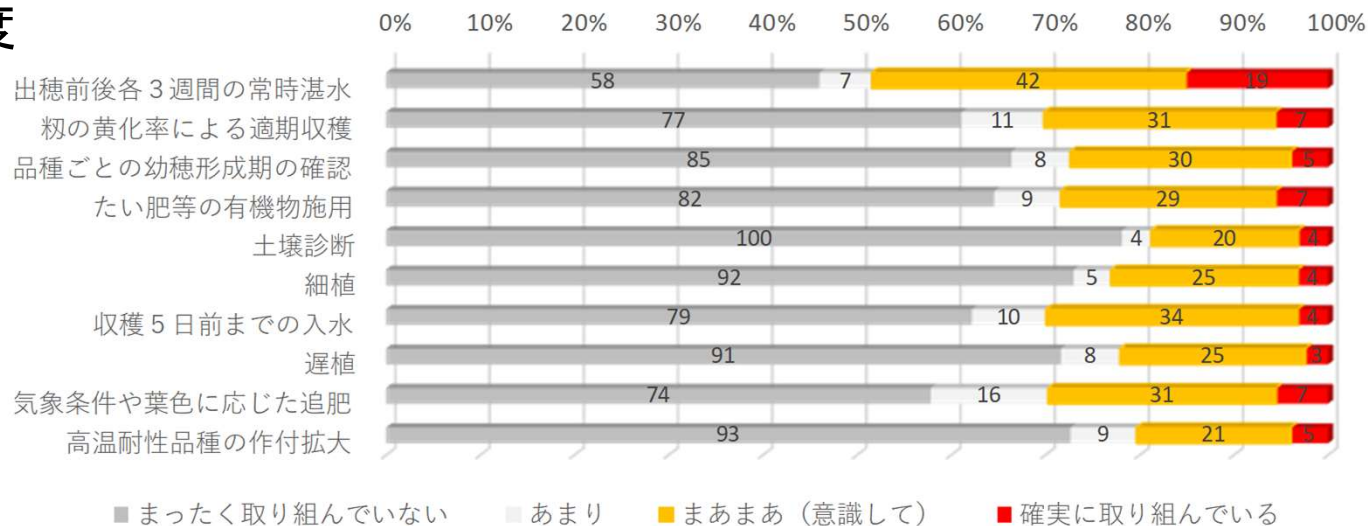


図 高温対策への取組度について

なお、グラフ中の数値は有効な回答数を示す。

「気象条件に応じた追肥」
「高温耐性品種の作付拡大」 } 取組が少ないこと課題

高温対策の取組による収量の状況（令和5年産）

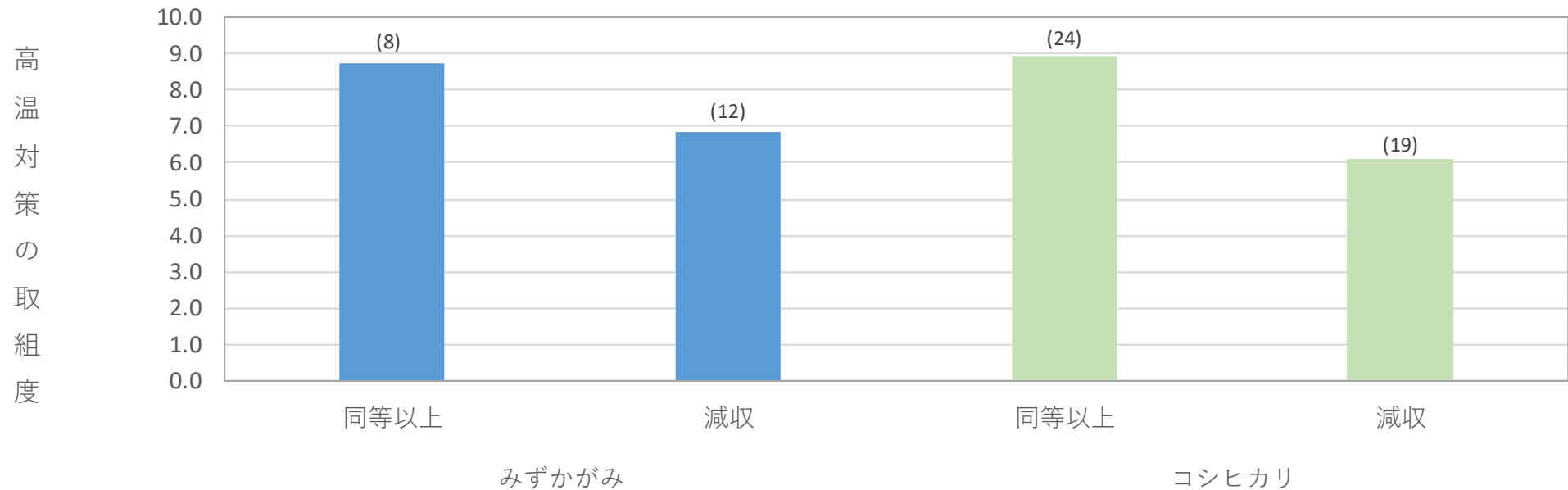


図 「みずかがみ」および「コシヒカリ」における収量と高温対策の取組度

同一農業者における今年産と昨年産での収量の増減を同等以上または減収で比較。

取組度の尺度は「確実に取り組んでいる」：3点、「まあまあ（意識して）」：2点、

「あまり」：1点、「まったく」：0点として各項目の和をその農業者の取組度とした。

なお、括弧内の数値は有効な回答数を示す。

➡ 高温対策への取組度が高いほど減収を回避

施肥体系の違いによる収量への影響

気象条件や葉色に応じた追肥の取組状況

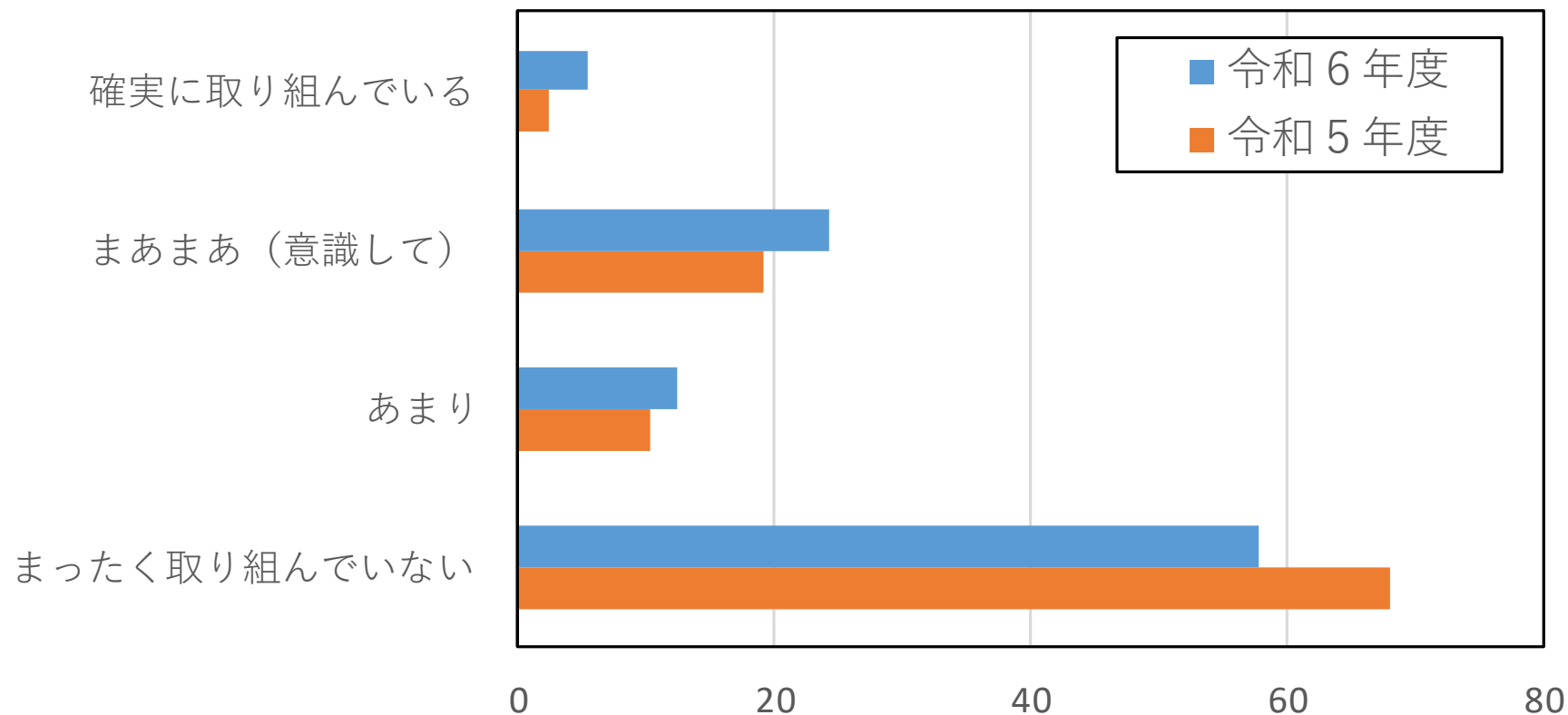


図 気象条件や葉色に応じた追肥の意識調査

➡ 追肥の取組が少ないこと課題

施肥体系の違いによる収量への影響（令和5年産）

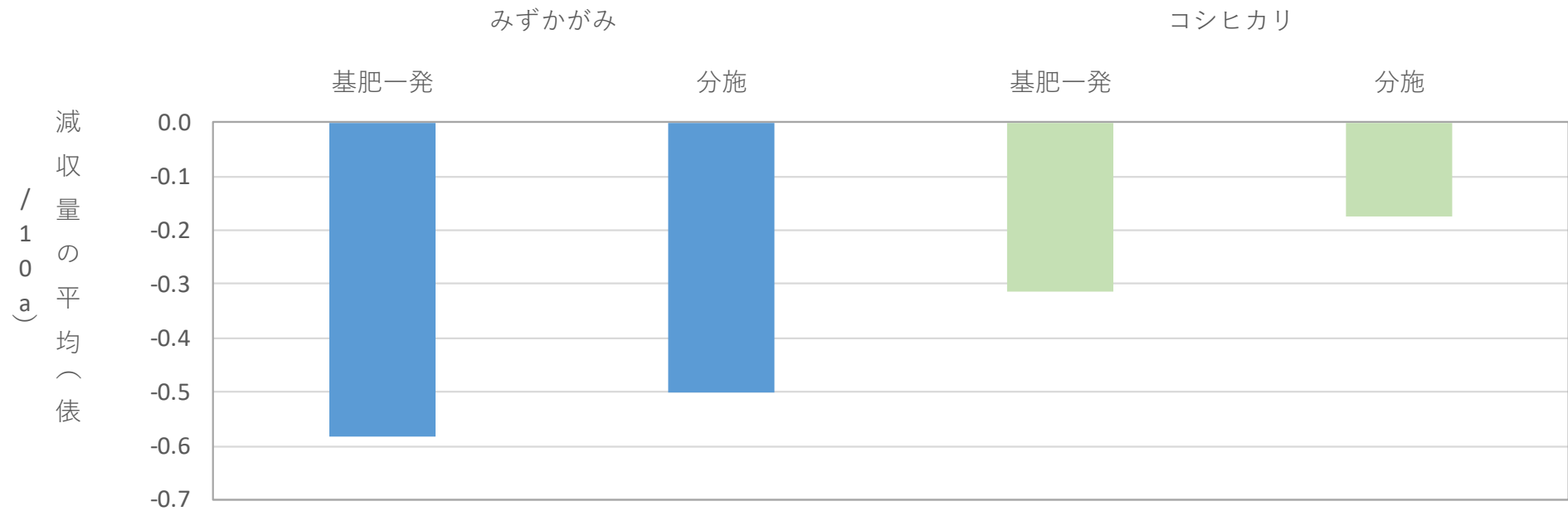


図 「みずかがみ」および「コシヒカリ」における施肥体系別の減収程度

➡ 分施肥体系では基肥一発体系と比べて減収幅が緩やか

高温に強い水稲品種開発の取り組み



高温登熟性検定ハウス

平成21年に農業技術振興センター内の水田に建設。ハウス内は外気温より約2℃高い環境となり、「みずかがみ」や「きらみずき」は当ハウスでの栽培を踏まえて選抜された。



田植え



ハウス内での生育調査



生育調査



生育調査



人工交配



収穫調査



米の品質調査

➡ 高温登熟性検定ハウスの中で200品種の稲を栽培することで、暑さに強いかを判定して、強い品種を選抜。

(参考) 「みずかがみ」の育成経過

○平成15年 交配

病気に強くて栽培もしやすい「大育1744」を母親、玄米品質と食味の優れる「滋賀64号」を父親として人工交配

○平成16年 F1養成

うまく交配できなかった個体を取り除き、種子の増殖

○平成17年 世代促進栽培

温室と短日処理装置を利用して1年間で3回栽培し、遺伝子を固定

○平成18年 個体選抜

50,000種の稲を1株1本となるように手植えし草姿や玄米品質から、795種を選抜

○平成19年 単独系統選抜

795種の稲から、91種を選抜

○平成20年 特性試験

収穫量、玄米品質、病気に対する強さ、炊飯の食味などを調査

○平成21年 奨励品種決定調査

○平成24年 高温登熟性検定

高温登熟性検定ハウスで暑さに強いかを調べるとともに、収穫量、玄米品質、病気に対する強さ、炊飯の食味などを、県内各地の一般農家の田んぼで栽培して調査

最も有望であったものを「みずかがみ」として品種登録出願



平成25年秋「みずかがみ」デビュー

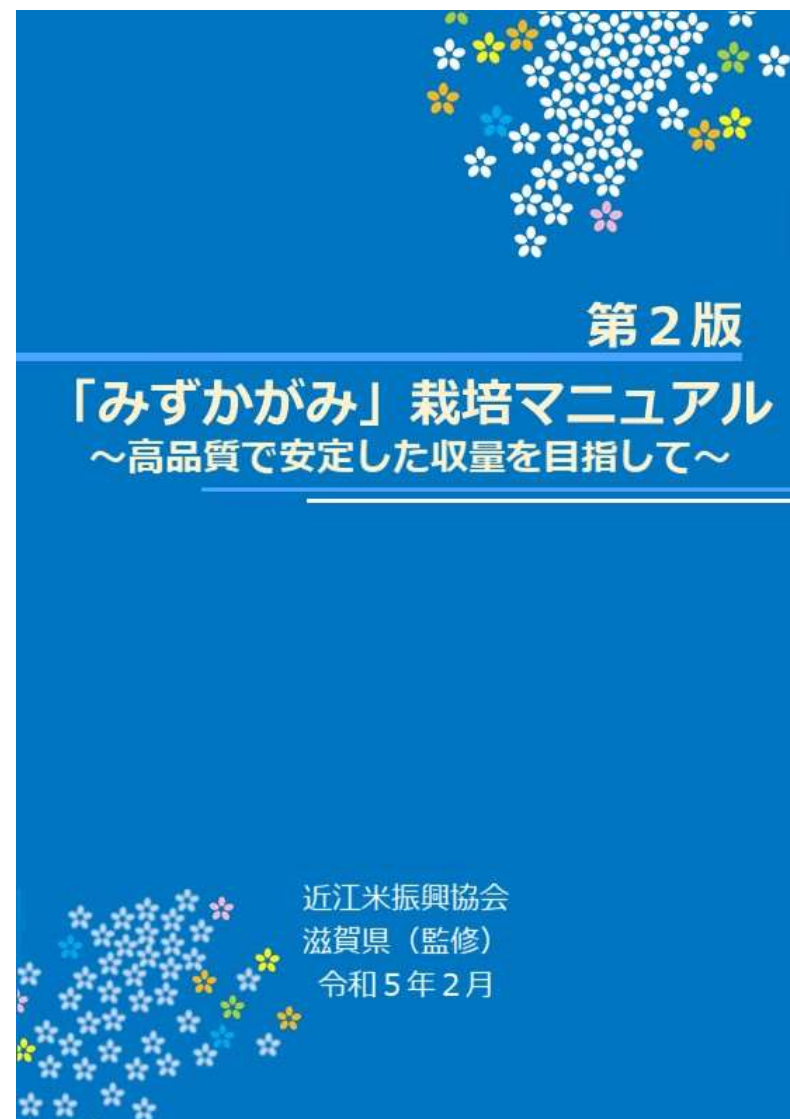
◆ 「特A」評価の獲得

年産	H25	H26	H27	H28	H29	H30
ランク	特A※	A	特A	特A	特A	A
年産	R1	R2	R3	R4	R5	R6
ランク	特A	A	A	A	特A	特A

※ 参考品種とは食味ランキングの対象ではないが、今後生産を奨励したい品種や話題性のある品種が選定される。

◆ 信頼される産地づくりに向けて

平成25年産から「みずかがみ」の栽培が始まり、作付面積が増加することに伴い、食味や品質のバラつきが指摘されるようになりました。県内外において消費されている「みずかがみ」について、県内のどこで作られても、美味しさを実感してもらえらる品質や食味を確保することが産地としての責任となります。今後も消費者の支持や信頼を得るよう、良食味を心がけた栽培に取り組みましょう。



令和5年秋「きらみずき」デビュー

- ◆ オーガニック生産者の拡大と技術向上による供給体制の整備
- ◆ 栽培技術体系の確立と生産拡大

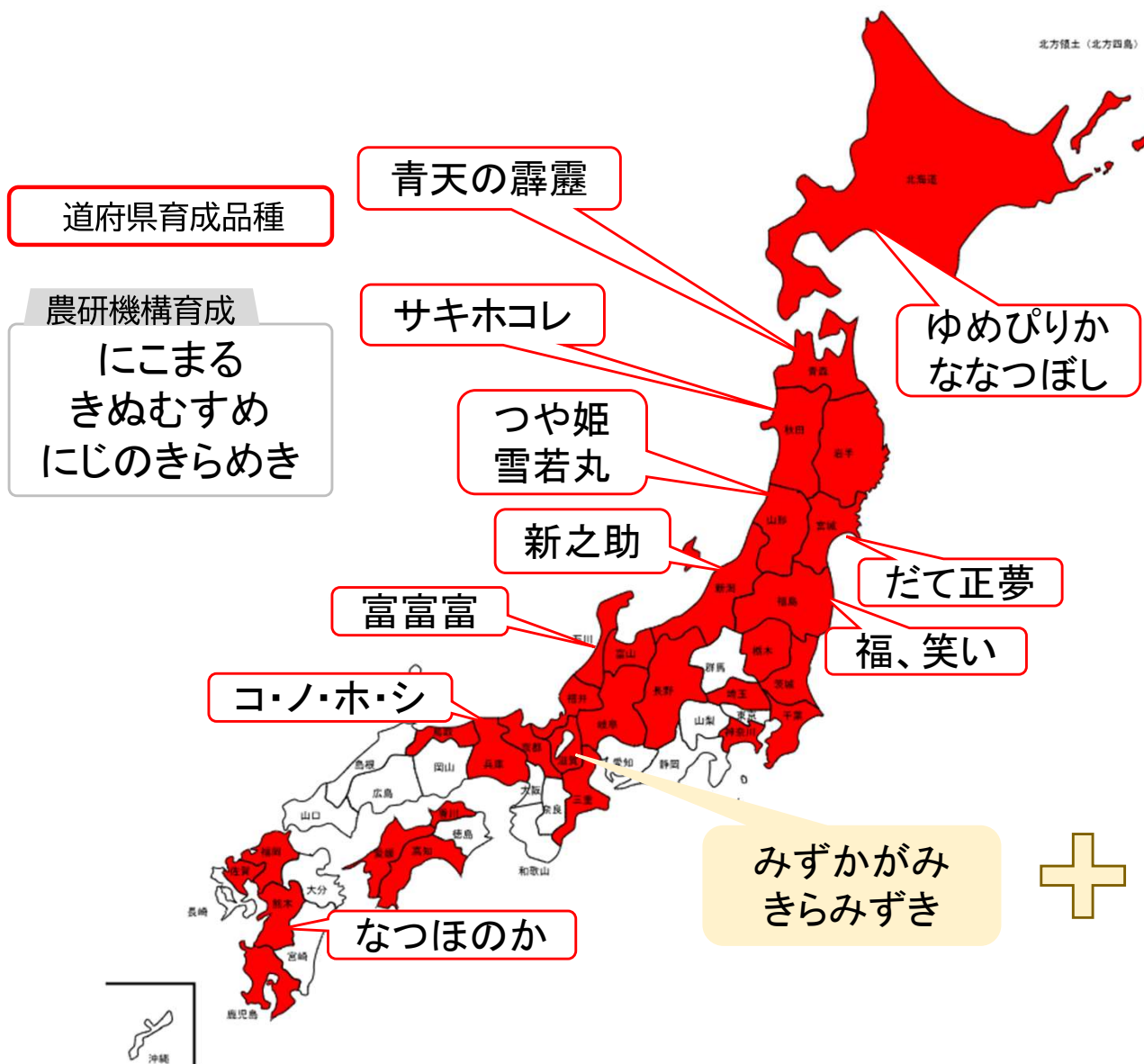
- ◆ 交流・商談の場を創出



- ◆ 近江米の一步進んだ取組の価値を多くの消費者に共感いただくため、県内外での販路開拓に向け、関係機関・団体が連携

→ **生産・流通・販売の好循環を目指す!**

全国の主な高温耐性品種



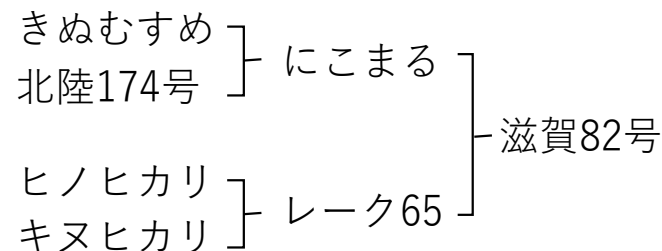
※ いずれも系統番号名で品種名は異なる予定

➡ 近江米の安定生産・安定供給を図るため、高温耐性品種を導入

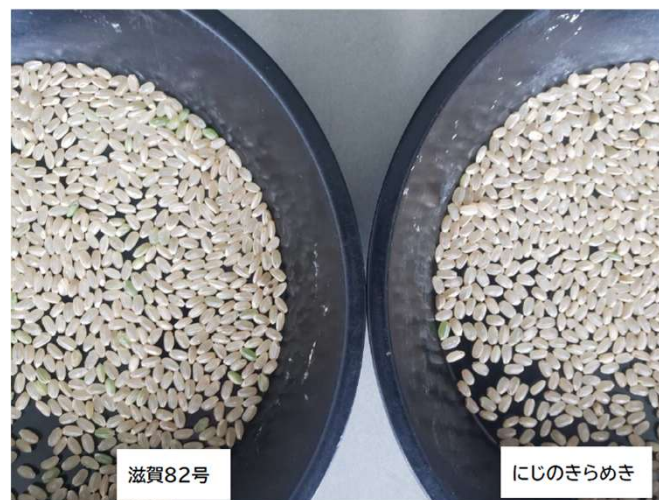
新品種「滋賀82号」

※ 系統番号名で品種名は異なる予定

- ◆ 多収で高温耐性を有するため、気候変動下でも安定した生産が可能で、食味は「コシヒカリ」と同等
- ◆ 「キヌヒカリ」の代替として、家庭用や業務用等の多用途で利用可能な品種
- ◆ 令和7年産の試験栽培では平均単収8.5俵、1等比率92.5%
- ◆ 令和8年産ではプレ栽培を行い、令和9年産で一般栽培を予定



図「滋賀82号」の系譜図



	滋賀82号	キヌヒカリ
高温登熟性	優れる	劣る
熟期 (収穫時期)	中生の早 (9月上旬)	早生 (9月初旬)
いもち病	弱 (コシヒカリと 同程度)	やや弱
単収 (kg/10a)	631	548
食味評価※	0.05	-0.15
穂発芽性	かなり難	やや易

※農技C産「コシヒカリ」を基準として評価

新品種「滋賀82号」

※ 系統番号名で品種名は異なる予定

令和7年産での試験結果（抜粋）

試験ほ場	面積 (a)	窒素施肥量 (kgN/10a)	単収 (俵)
甲 賀 市	36.6	12.0	11.6
近 江 八 幡 市	73.1	10.0	8.8
東 近 江 市	62.6	12.2	8.7
彦 根 市	43	12.2	9.1

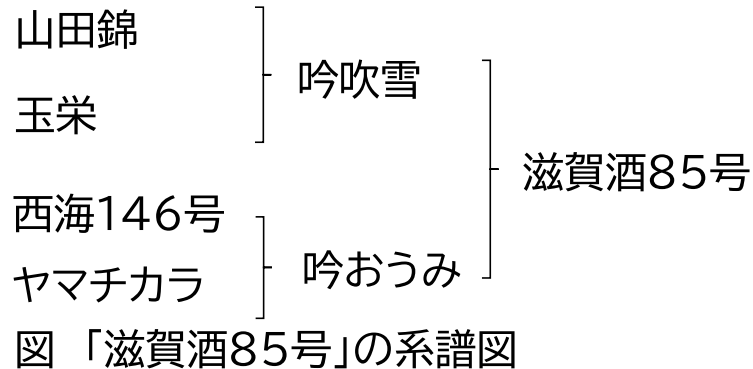


◆令和8年産では県域でのプレ栽培と卸へのPR

新品種「滋賀酒85号」

※ 系統番号名で品種名は異なる予定

- ◆ 令和4年～令和7年までの4か年の収量を「吟吹雪」と比較すると、「滋賀酒85号」は約4割多い10俵（620kg/10a）となり、玄米千粒重は約5%高く、心白発現も多い
- ◆ 令和5年産米 1kgを使用した小仕込の醸造特性試験では「滋賀酒85号」は「吟吹雪」と同様の傾向を示した
- ◆ 令和8年産ではJAグリーン近江にて約10haの一般栽培を行い、令和9年産ではより一層の作付拡大を予定



滋賀酒85号



吟吹雪

	滋賀酒85号	吟吹雪
出穂期	8/11	8/14
成熟期	9/15	9/17
稈長(cm)	91	75
穂長(cm)	19.9	18.9
穂数(本/m ²)	382	423
精玄米(kg/10a)	620	316

品種名	現状 (令和7年産)	方向性	目標 (令和12年)
滋賀酒85号	-	増	100
玉栄	43	品種転換を検討	
吟吹雪	48	品種転換	
その他の酒米	177	維持	

※農技Cにおける2022～2023年の試験結果に基づく

新品種「滋賀酒85号」

※ 系統番号名で品種名は異なる予定

	滋賀酒85号	玉栄	吟吹雪
出穂期	8月11日	8月7日	8月14日
成熟期	9月15日	9月14日	9月17日
稈長(cm)	91	87	77
穂長(cm)	19.9	21.8	18.9
穂数(本/m ²)	382	361	423
精玄米重 (kg/10a)	620	585	316



令和6年(2024年)8月21日に農業技術振興センター内ほ場(近江八幡市)で撮影

気候変動下における近江米の安定生産

1. 近江米の現状

- ◆記録的な猛暑等の影響により収量・品質が低下
- ◆京阪神の卸等は、より近郊の産地の主食用米を集荷したい意向があり、近江米の引き合いは強い

2. 近江米の安定供給に向けた対策

- ◆土づくりをはじめ、施肥や水管理等の技術対策の実践
- ◆気候変動下でも安定生産が可能な高温耐性品種の導入

「滋賀82号」：「キヌヒカリ」からの転換

「滋賀酒85号」：蔵元の求める原料米の安定供給

(参考) 導入スケジュール

	R8年産	R9年産	R10年産	R11年産	R12年産
滋賀82号	10ha プレ栽培 卸へのPR	780ha 一般栽培開始 卸へのPR	1,000ha 作付面積の拡大 販路開拓	3,500ha	5,000ha
滋賀酒85号	10ha 醸造開始				100ha